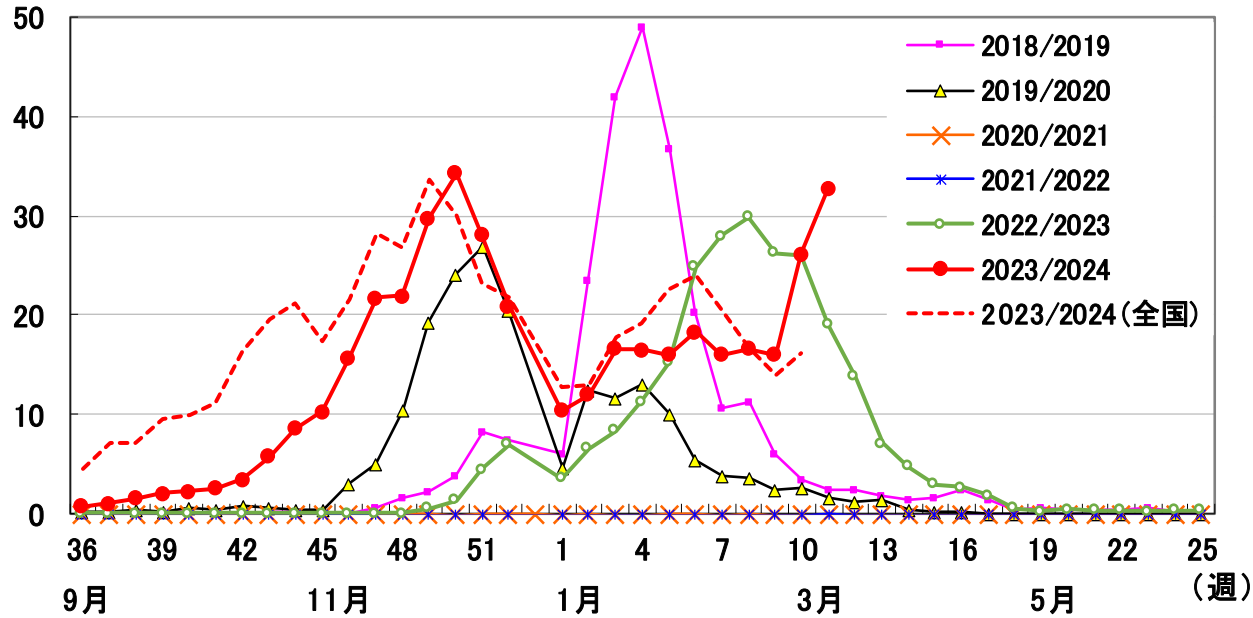


インフルエンザの発生状況(富山県)

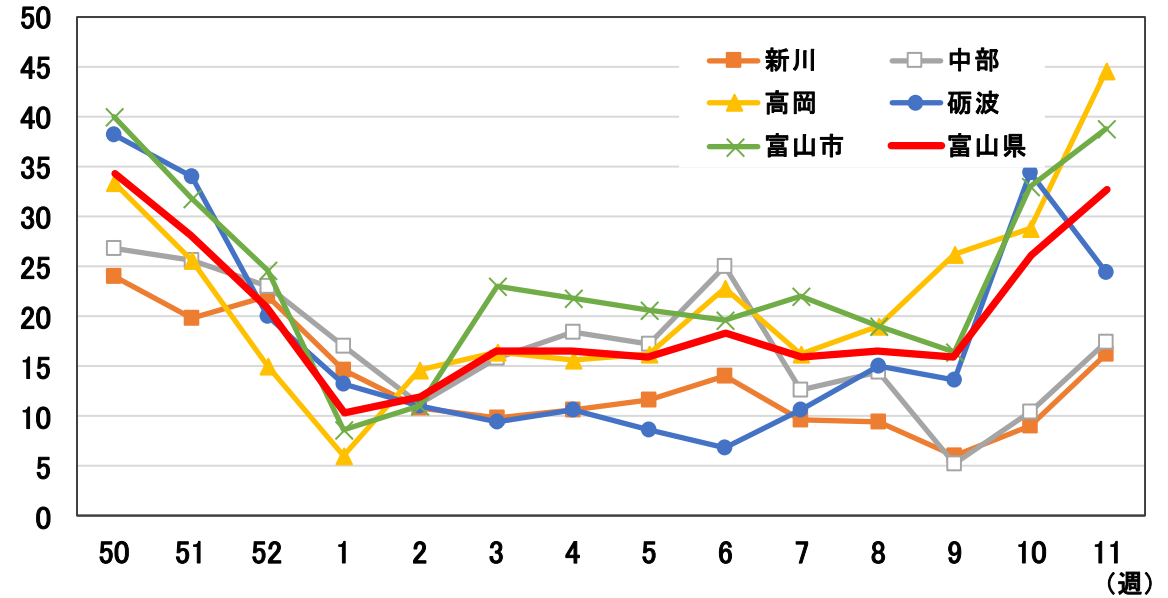
【第11週(2024/3/11~3/17) 感染症発生動向調査速報値 (2024/3/21時点)】

(人/定点)

図1. 患者報告数の推移(富山県)



(人/定点) 図2. 厚生センター・保健所別患者報告数(2023/2024)



- 富山県の患者報告数(図1)は今週(第11週) **32.79**人/定点となり、先週(26.21人/定点)から増加した。警報レベルの目安である30人/定点を超え、2023年第50週のピーク時(34.27人/定点)と同程度の報告数であった。
- 厚生センター・保健所別に見ると(図2)、砺波管内を除くすべての管内で先週から増加した。高岡(44.54)、富山市(38.94)管内では警報レベルの目安である30人/定点を超えた。

図3. 年代別割合(富山県、第11週)

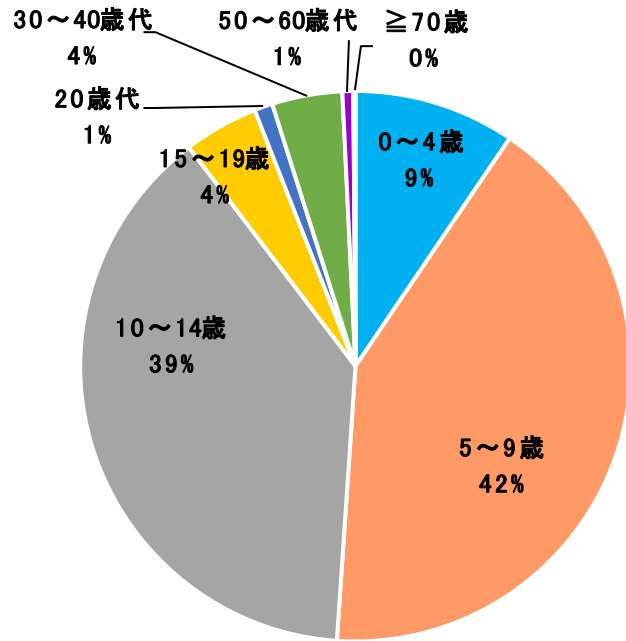
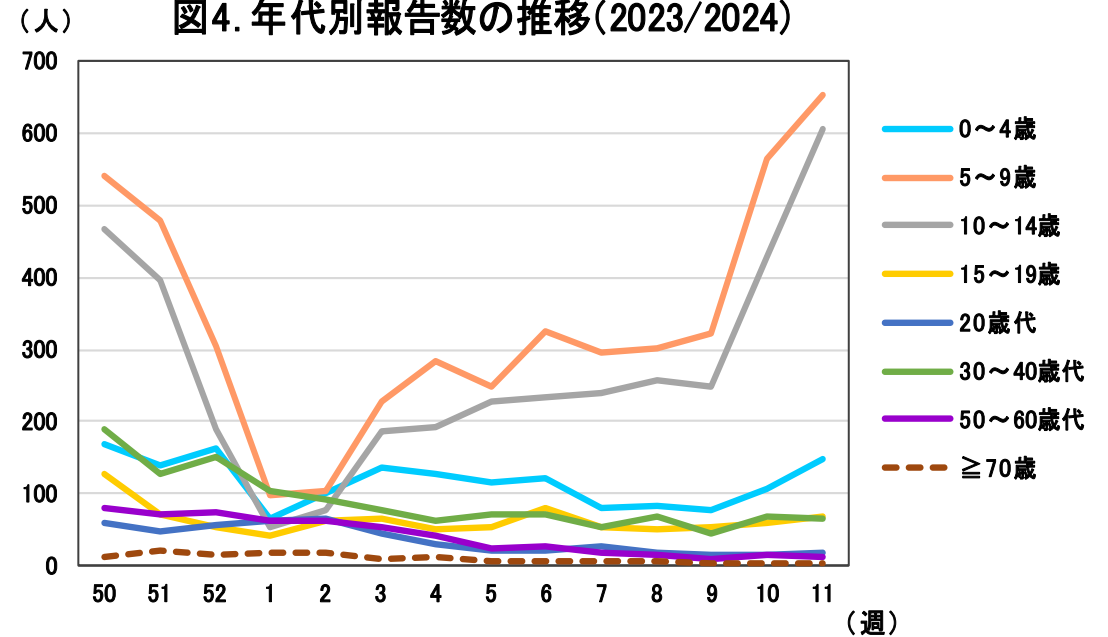


図4. 年代別報告数の推移(2023/2024)



- 富山県の第11週の年代別割合（図3）では、15歳未満の小児が90%を占め、先週（88%）からやや増加した。
- 年代別報告数の推移（図4）では、15歳未満において先週と比較して増加した。特に5歳～9歳（橙）、10～14歳（灰）で顕著に増加しており、2023年第50週のピーク時を超える報告数であった。
- インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等は第11週に45件（小学校33件、中学校9件、その他3件）の報告があった。

図5. 都道府県別インフルエンザ報告状況(第10週)

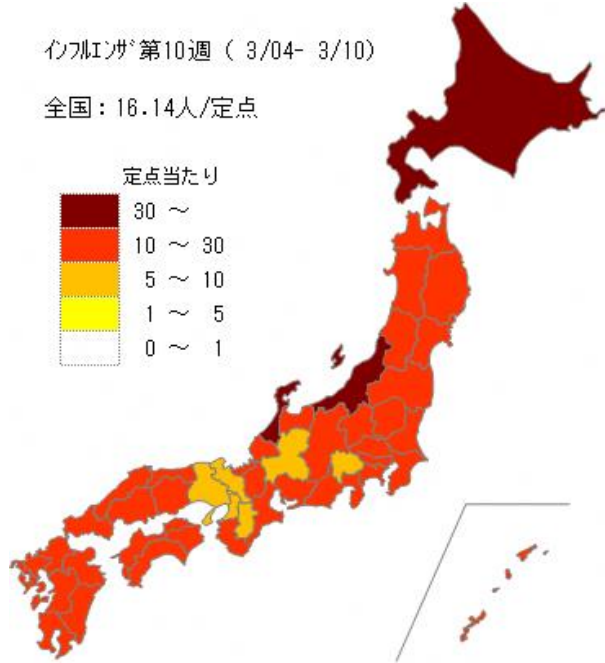
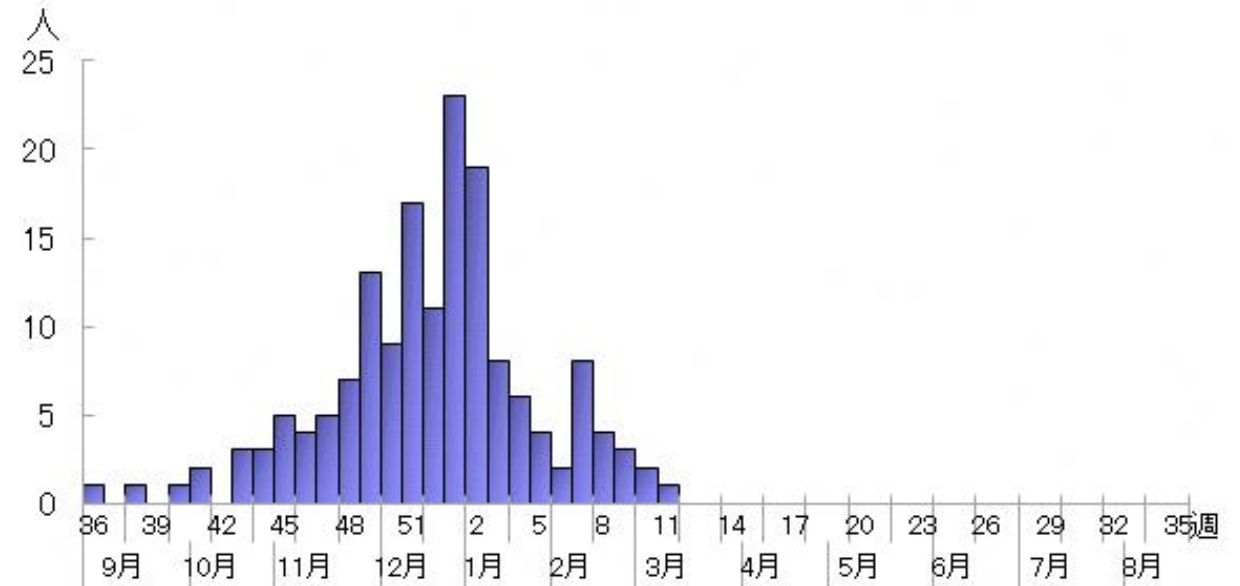


図6. インフルエンザ入院患者報告数(第11週)



- 全国では第10週に16.14人/定点となり、第9週（13.96）から増加した。都道府県別（図5）では、41都道府県で注意報レベルの目安である10人/定点を超えている。また、その内3道県で警報レベルの目安である30人/定点を超えている。
- 県内5か所の基幹定点医療機関を対象に実施するインフルエンザ入院サーベイランス（図6）では、第11週に1例（10歳代）の報告があった。
- 県内のインフルエンザ定点の患者報告数は小児を中心に2週連続で増加し、警報レベルの目安である30人/定点を超えた。また、B型の検出割合は今週88.8%であり、先週（88.4%）と同程度であった（[富山県感染症発生動向速報2024年第11週](#)）。小児を中心にB型による感染が拡大しており、引き続き今後の発生動向を注視する必要がある。